

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市大野田児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人ワーカーズコープ	
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和4年度 32,996人(前年度比 119.0%) ・令和3年度 27,736人 ・令和2年度 25,556人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 60,165千円 (50,865千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。 なお、職員における虐待や不適切な対応を防止する取り組みについてのマニュアル「職員における虐待等の不適切な行為に対する対応について」を作成し、職員会議やOJTを開催して職員間で周知共有、子どもの人権に十分に配慮するとともに、子ども一人ひとりの人格を尊重して支援が行われている。	19/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人ワーカーズコープ）による自己評価》
<p>今年度は、「まずはやってみよう～笑顔いっぱいの未来のために～」をモットーに児童館運営に努めました。地域や保護者との繋がりが深まり、一体となって子どもたちを見守りつつ、一緒に楽しむことができた一年でした。</p> <p>【児童健全育成事業】 卓球・モルック・バドミントンを行うスポーツDAYを開催し、異年齢の交流活動ができました。ペットボトルのエコランタン作りをし、防災・SDGsを学びました。</p> <p>【子育て家庭支援事業】 転出入が多い地域特性を踏まえ、いつでも参加できる年齢別のプログラムを多種多様な内容で行いました。恒例の年2回のおさがり会を開催しました。また、保護者支援を重視し、母の為のイベントや、隣接する児童発達支援センターとの共催「たんぼぼサロン」を定期的に行い、情報交換や子育ての相談など、必要とする方へ適切な支援ができるよう情報収集に努めました。</p> <p>【地域交流推進事業】 地域の方々とともに、ツナグ支援(フードBOX・制服回収BOX・エコキャップ運動・コンポスト等)が浸透し、地域の方々からも提供が増えました。クリーン作戦も、民生委員・児童委員さんが参加をしてくださり、子どもたちと一緒に近隣の公園の環境美化活動に取り組み、拾ったゴミの量を可視化できるようグラフを作成しました。また、大野田体育振興会と一緒にモルック大会を3回開催しました。</p> <p>【放課後健全育成事業】 地域の方の手作りのお手玉を全クラブ児童に配り、お手玉とコマの検定をしました。今年度は、SDGsや自然あそびの取り組みの一環として、SDGsフェスタや、登米の森であそぼうなどのイベントに参加し、他館との交流を図ることができました。JUMP-JAM運動遊び(児童健全育成推進財団とナイキが共同開発した、運動遊びプログラム)を導入し、異学年交流を図りました。勝ち負けを決めるのではなく、仲間と楽しく運動遊びができるよう支援しました。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、「スポーツデイ」は、自由来館の小学生や他校の親子が利用する等、地域の中で浸透しており、異年齢交流や放課後児童クラブの児童との交流も図れている。また、中高生世代に向けた「語LINE」を毎月児童館便りに掲載して周知に努めたことで、学習を目的として来館する中学生も見られており利用増加に繋がっている。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、春と秋に「うえるかむ大野田」を開催している。転出入家庭の多い地域であることから、春は1週間継続して実施し、児童館や大野田地区の情報を伝えている。また、情報コーナーを、幼稚園・保育園・一時預かり・救急等カテゴリーを細かくして、必要な情報を保護者が得やすいように工夫し、安心して子育てができる環境作りを努めている。「おお♡てて」では、地域の方の協力のもと、保護者や乳幼児親子向けのヨガを継続して開催したり、「おはなし会」を定期的で開催する等、乳幼児親子の触れ合いや保護者のリフレッシュの場を提供し好評を得ている。</p> <p>地域交流推進事業においては、大野田地域体育振興会さんとのモルック体験会や老人福祉センターで活動する折り紙クラブの方の指導で七夕飾りを作成したり、手話クラブの方に自己紹介や歌の手話を教えていただき、ミニ発表会や大野田はぎの苑さんで披露する等、地域の方の指導を受けて活動する場が豊富にあり、多世代間交流を通して児童の社会性や自主性が育まれている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、高学年の中からお手伝いをしたいとの申し出があり、それを受けて「サポーター」としての役割を作り名札を用意して活躍できる環境を整えたことで、遊びや生活の中で低学年のリーダーになり意欲的に手伝う等、自主性や社会性が育まれる取り組みとなった。また、定期的に「子ども会議」を開き、児童館・サテライトでの遊びや過ごし方、いじめに関することを話し合い発表する場を設ける等、子どもが主体的に生活できる支援を行っている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課